

# 令和2年度広島市立広島特別支援学校高等部経営計画

高等部主事 谷岡 将磨

## 1 ミッション

チャレンジ ・ 実現 ・ 貢献

## 2 学校教育目標

自立と社会参加を目指し、生きる力を育成する。

## 3 ビジョン

・可能性へのチャレンジ ・夢や希望の実現 ・社会に貢献

## 4 高等部教育目標

	小学部 経験	中学部 挑戦	高等部 自立
知識及び技能	○基本的な生活習慣に必要な知識や技能の習得を図る。	○集団生活に必要な知識や技能の習得を図る。	○社会生活に必要な知識や技能の習得と活用を図る。
思考力、判断力、表現力等	○身近な人に自分の思いを伝える力を育てる。	○自分で考え、選択する力を育てる。	○自分で考え、相手や場に応じて行動する力を育てる。
学びに向かう力	○人やものに対する興味関心を育てる。	○人やものとかかわりながら、意欲的にやり遂げようとする態度を育てる。	○人やものとかかわりながら、働く喜びを感じ、主体的に取り組む態度を育てる。
人間性	○人やものとかかわる力を育てる。	○集団の中で、友達と協力する力を育てる。	○社会の中で、協調する力を育てる。

## 5 高等部学年目標

第1学年	(1) 意欲をもって、自らの課題に取り組む力を育てる。 (2) 一人一人を大切にしよう学級・学年づくりを行う。
第2学年	(1) 健康の維持増進を図り、体力を付ける。 (2) 社会生活における基本的なルールやマナーを理解させる。 (3) 職場実習に向けて、意欲をもって取り組める力を育てる。 (4) 互いに認め合い、学びあい、支えあう集団づくりを行う。
第3学年	(1) 健康の維持増進を図り、体力を高める。 (2) 社会生活における基本的なルールやマナーを身に付ける。 (3) 卒業後の生活に向け、課題をより明確にし、目標をもって取り組む力を育てる。 (4) 互いに認め合い、学びあい、支えあう集団づくりを行う。

## 6 高等部のビジョン

○積極的に、前向きに、熱く！  
→こんな状況だからこそ、ポジティブに捉え、今できることをしっかり考えて、みんなの知恵を結束していきたい。  
○プラスワン行動を起こそう！  
→この学校の強みである「挨拶」「返事」の継続。それぞれの役割。重なってもいいから。  
○情報発信力を高めよう！  
→お互いを知るきっかけに。授業、生徒指導、掲示物、通信、ホームページ・・・自分の得意な分野で。

## 7 高等部経営目標

卒業後の自立と社会参加を目指し、生徒が自ら進んで学習に取り組み、主体的に生活する力を育む。  
(1) 学習環境の美化と整備を進める。  
(2) 教員間の連携を図り、生徒の実態に応じた指導を行う。  
(3) 研修に努め、専門性の向上を図る。  
(4) 保護者、関係機関と密接に連携をとる。  
(5) 学校、学部組織を意識して、校務を行う。

## 8 高等部経営計画

領域	NO	短期経営目標	具体的方策	成果指標
学力の向上・豊かな人間性の育成	1	卒業後の豊かな生活を目指し、個別のニーズに応じた進路指導を行う。	○生徒一人一人のニーズに応じた支援ができるよう教職員研修を充実させる。 ○生徒の実態を把握し、進路決定に向けて本人や保護者のニーズに応じた取組を実施する。	★具体的方策の達成率。 ・100%の進路保証を目指す。 ・就職率40%を目指す。
	2	主体的・対話的で深い学びを目指し、思考を支える言葉の力を育むための授業づくりを行う。	○授業改善を目指し、全体研や各学部研修会、授業づくりシートを活用した授業づくりを行う。 ○全学級で生徒が主体的に活動に向かう姿を具体化・明確化し、授業づくりシートを作成する。授業改善の軌跡を残しながらフィードバックを行う。	★具体的方策の達成率。 ★教職員アンケート ・全学級で国語科・自立活動の授業づくりシート作成する。 ・全体研修会2回以上、各学部会研修会3回以上、ポスターセッション2回以上開催する。
専門性の向上	3	各学部で課題を設定し、学部会や学部研修会等を活用して、発達課題・障害特性等の理解や指導法についての研修を深め、授業改善を目指す。	○生徒の障害特性の理解、指導力向上を図るため、学部会で各学期に1回の事例研修を行う。 ○学年会、類型会では、適切な指導と必要な支援についての情報交換と具体的な取組の共有を図り、その課題について協議を行う。 ○授業の振り返りを学級で毎日行い、学年会や学部会で、毎回、生徒の情報交流を行う。	★具体的方策の達成率。 ★教職員アンケート ・学部会で各学期に1回の事例研修を行う。 ・学部会や類型会で生徒の情報交換を毎回行う。 ・各学級で授業の振り返りを毎日行う。 ・学年会や学部会で授業の情報共有を毎回行う。
教育環境の整備	4	いじめの未然防止、早期発見見逃し0に努め、いじめへの適切な対応を行う。	○学年会で生徒の情報共有を図り、いじめの早期発見に努める。発見された事案については、「学校いじめ防止委員会」に報告し、対応を協議し、迅速に解決を図る。	★具体的方策の達成率。 ・学年会で生徒の情報交換を毎回行う。
	5	生徒が見通しをもち、自ら進んで主体的に活動できるように環境づくりを行う。	○生徒の実態に応じた物理的な構造化や視覚支援ツールを活用した教室環境づくりを行い、生徒が主体的に活動できる環境を整備する。 ○構造化や視覚支援ツールに関する交流を学年会や学部会で行う。 ○環境づくりについてのテーマを決め、学部全体で意識をして取り組む。	★具体的方策の達成率。 ★教職員アンケート 学部会で実践交流を年間1回程度行う。(教室めぐりや実践発表など)
新たな学校づくりの推進	6	「地域に開かれた学校づくり」を目指し、学習の充実を図る。	○校外販売、地域清掃、校外学習、地域交流会、人材活用等、生徒の実態に応じて地域や環境の良さを生かした学習活動や行事を設定する。	★具体的方策の達成率。 生徒の実態に応じて地域や環境の良さを生かした学習活動や行事を学期に1回設定する。